

未来に響く Vol.6 エコ・ワード

ニュースで耳にする環境「ワード」。
明日への行動につなげてみよう。

問 環境政策課 / Tel674-7486

問題 サステナブルファッションってなに？

- A オーガニック素材だけを用いたファッション
- B 持続可能な社会を目指すためのファッション
- C 冷暖房エネルギー削減につながる気候にあわせたファッション

答え B 持続可能な社会を目指すためのファッション

解説

サステナブルとは、英語で「持続可能な」という意味。サステナブルファッションは、大量生産・大量消費・大量廃棄から脱却し、環境に負荷がかからないよう配慮したファッションの取り組みです。

服を作るためには、原材料の生産や衣服の製造、外国の工場からの輸送など大量のエネルギーや資源が必要です。しかし、現代の日本では、1年間に1回も着ることがない服が1人当たり25着にもなり、手放される服の7割弱がごみとして出され、環境負荷が発生しています。

ファッションの在り方をサステナブルにするために、私たちにできることを始めてみましょう。



私たちにできること

適量消費、循環利用を目指そう

- 必要な服か、長く使える服かを考えて購入する
- 情報を調べて、環境に配慮して作られた服を選ぶ
- 服を手放すときは、リユースやリサイクルをする

市では資源ごみの日に古着を回収してします

市内の古代寺院

市内では古くから寺院が造営されていました。現在確認しているのは梶原寺跡と芥川廃寺です。

梶原寺は、7世紀中頃に造営された市内最古の寺院で、梶原1丁目の畑山神社周辺にありました。東には山陽道に伴う古代駅家(うまや)の推定地・梶原南遺跡が所在する要所です。

「正倉院文書」の中には、天平勝宝8(756)年、造東大寺司が造営中の東大寺大仏殿回廊の瓦の製作を四天王寺と梶原寺に依頼したことが、摂津国の行政を司った摂津職の文書「摂津職解」に書かれています。

これまでの調査では多くの瓦が出

土し、なかでも創建軒丸瓦は梶原寺を中心として摂津国中で使用された瓦であることが分かっています。梶原寺が北摂地域でも重要な寺院であったと言えるでしょう。

芥川廃寺は、7世紀後半に造営された古代寺院で、郡家新町の素戔鳴尊神社周辺にありました。寺のすぐ東には、古代の郡役所である嶋上郡衙が所在していました。寺は、地元豪族・三島県主一族の私的な氏寺として造営されたのちに、嶋上郡衙の成立に伴って、郡衙に付属する公的な郡寺として運営されたと考えられます。

以上のように梶原寺跡と芥川廃寺は国との関わりが深い寺院である

ことが明らかになっていますが、伽藍など主要な遺構が発見されていないことから、今後の調査研究によって、より具体的な姿が明らかになることが期待されています。

(埋蔵文化財調査センター)



梶原寺跡の創建軒瓦

たかつき歴史アラカルト 96